

4つの症例で シミュレーションとディブリーフィングを行った PROST講習会

6月23日東北大学クリニカル・スキルスラボでPROSTの講習会が行われました。



PROSTとは？

臨床現場に近い訓練ができる シミュレーション教育システム

PROSTは、救急救命士や救急隊が自分自身で学習し、観察、評価、判断といった臨床能力をスキルアップできるよう工夫がなされたシミュレーション教育システムです。そこでは、救急現場で起こりうる30症例以上のシナリオを用意。その一つひとつが、判断に迷いやすい症例、特に内科的疾患や複合的要因による疾患となっており、文字通り、非常に複雑で明

確な答えが見つからない場面も多数存在する実際の臨床現場をシミュレートしています。そして、臨床現場にきわめて近い訓練をPROSTで行うことによって、傷病者観察時の病態評価能力を高め、アセスメントに基づく病院選定、及び、早期搬送により救急活動時間の短縮と臨床推論能力の向上を目指すことができます。

1つのシナリオを4つの項目に沿ってトレーニング

トレーニングは通報から現場到着、搬送まで患者に相当するシミュレータ「レサシアンシミュレータ PLUS」を用いてリアルに再現しました。また、1つのシナリオごとに①ブリーフィング(覚知と方針決定)②現場活動③病院収容依頼④ディブリーフィング

(振り返りと全体討論)の4つの項目で構成。④ではファシリテータからの質問とシミュレーションを行わなかったチームメンバーを交えてのディスカッションを行いました。

トレーニング 1 特発性VF蘇生後の傷病者に対するのシミュレーション

傷病者は15歳の男性。朝8時、中学校に登校中に玄関の階段を登りきったところで突然倒れ痙攣したため救急要請。全身性の強直性痙攣。校門にいた教員が駆けつけ、しばらくして痙攣は頓挫しましたが、意識がなくあえぐような呼吸をしたため、教員

がAEDをすぐに持ってきて装着し、1回ショックしたところ体を動かし始めました。そのタイミングで救急隊が到着。身体所見は末梢冷感・湿潤あり、意識障害、頻脈もありショックを示唆する所見。

トレーニングポイント



血圧は保たれているが痙攣の原因(VF)を事前に評価し適切な搬送先を選定できるか。また、痙攣の際の二次損傷(外傷、舌咬傷など)も評価できるか



トレーニング 2 糖尿病性ケトアシドーシス(ペットボトル症候群)による意識障害傷病者に対するシミュレーション

トレーニングポイント



熱中症も鑑別になるが、身体所見とバイタルサインから高度脱水による循環血液量減少性ショックと判断し輸液が行えるかがポイントである。



トレーニング 3 自然気胸をおこした傷病者に対するのシミュレーション

傷病者は42歳の男性。妻と子供2人の4人暮らし。子どもの運動会で走ったあと、胸痛息苦しさを訴えていました。成人してから喘息とCOPDのオーバーラップを発症し吸入薬を持っています。1年に1～2回喘息発作を起こし吸入薬で対応しています。当

日、子供の運動会で親子徒競争に参加後、徐々に胸痛、呼吸困難、胸部圧迫感が出現し、大会本部テントにて仰臥位。11時に妻が救急要請しました。傷病者はヘビースモーカーで20歳から30本/日の喫煙歴あり。長身でスリムな体型をしています。

トレーニングポイント



ポイントは身体所見や病歴から気胸を疑い、心不全や喘息、COPDの急性増悪を鑑別し、適切な医療機関（地域によっては二次医療機関）を選定できること。



トレーニング 4 急性喉頭蓋炎による呼吸困難傷病者に対するのシミュレーション

傷病者は31歳の男性、妻と子供2人（5歳と生後1か月）の4人暮らし。朝から39度の発熱と喉の痛みがあり、仕事を休んで午前中に近くの内科を受診。風邪と診断され、風邪薬をもらって帰ってきました。職場にインフルエンザで病休したものがおり、心配してインフルエンザの検査もしてもらったが陰性。

喉が痛くて水もなかなか飲めなかったが、夕方になり痛みがさらに強くなり水分摂取も辛い状況に。傷病者が最後に水分摂取したのは16時ごろ。夜になって妻が自室の様子を見に行くと、苦しそうにしていたため20時半に救急車を要請しました。

トレーニングポイント



振り返りのポイントは搬送中の体位管理（仰臥位？側臥位？坐位？）をどうするか？もし補助換気が必要になったらどうするか？考えられる疾患は何か？である。



\\ 受講者からの感想 /\

以上、当日はトレーニング1：突発性VF蘇生後、
トレーニング2：糖尿病性ケトアシドーシス（ペットボ
トル症候群）、トレーニング3：自然気胸、トレーニン
グ4：急性咽頭蓋炎のシミュレーショントレーニ

ングが終了。当日トレーニングに参加した置賜広
域行政事務組合消防本部と西村山広域行政事務
組合消防本部、2チームの救急隊の皆さんからは
以下のような感想をいただきました。

救命士の訓練所で行うよりもレベルの高いトレーニングになることはイメージしていましたが想像以上でした。



通常のシミュレーション訓練の場合、通報内容でおおよその状態が想定できましたが、こちらは通報内容を聞いても、そして実際にアタックしてみてもわかりませんでした。もし実際に直面したら、大変な思いをするような設定で大変に訓練になりました。



地域柄、搬送先は決まっていますが、症状別に搬送先を考える必要性も痛感しました。



緊急度や重症度を見極める観察の大事さをあらためて考えさせるプログラムでした。



今まで自分で感覚的に判断していたものが言語化でき、クリアになったと思います。



振り返りのシミュレーションが特に良かった。現場で振り返りはあるがこういったトレーニングでは初めてであり、大変に役立ちました。



発行：レールダール メディカル ジャパン株式会社 マーケティング部

TEL：03-3222-8080 www.laerdal.com info.jp@laerdal.com

PROSTについて詳しくはこちらをご覧ください ▶ <https://laerdal.com/jp/services-and-programs/educational-services/prost/>